



# アイヌタイムズ

## 第41号

2007年4月10日(火) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第41号(2007年4月10日発行)からアイヌ語抜粋  
著者: 横山裕之

### 第70回北海道エスペラント大会

(アイヌ イタク [アイヌ語])

2006 パ 9 チュプ 30 ト タ、札幌 タ「第70回北海道エスペラント大会」 アン ルウエネ。

エスペラント イタク イェ ウタラ ウサ オカ モシリ オロ ウン ウサ オカ イタク エヤム ペネ ルウエネ。

カニ カ ネノ クヤイヌ クス、シラウオイ ウン 大須賀るえ子 カツケマツ トウラ ニプタニ ウン 萱野志朗 ニシパ「アイヌイタク 復興運動」オルシペ イェ クニ クニスク ルウエネ。大須賀 カツケマツ オルシペ アナクネ "シラウオイ タ アイヌイタク アエハノツカラ" ネ ルウエネ。

### 第70回北海道エスペラント大会

(日本語)

2006年9月30日(土)に札幌で第70回北海道エスペラント大会が開かれました。

エスペラントを使う者は、世界中の色々なことばを大切にします。

私もそう思いますので、白老の大須賀さんとニ風谷の萱野さんに「アイヌ語復興運動」のお話をお願いしました。

大須賀さんのお話のテーマは、「白老でアイヌ語を学ぶ」です。



大須賀 カツケマツ ラジオ講座 オロ タ アイヌイタク エパカシヌ ワ シラウオイ タ 1998 パ ワノ "エキロロアン コロ イサイカ ノ アイヌイタク イエパカシヌ ウシ (教室)" オロ タ イエパカシヌ ワ、イタカン ロ" セコロ アイエ大会 エウン ネ 教室 オルン ウタラ パイエ

大須賀さんは、ラジオ講座でアイヌ語を教えたり、白老で1998年に「楽しくやさしいアイヌ語教室」を開き、メンバーを弁論大会に出しました。

レ ルウェ ネ。

大須賀 カツケマツ "ポン ホロケウ カムイ ヤ  
イエユカラ" イエ ルウェ ネ。

エトコ タ シラウオイ ウン 上野 ムイテク  
ン フチ ネ カムツユカラ イエ ルウェ ネ。

"アイヌ神謡集" カ タ アン "ポン ホロケウ  
カムイ ヤイエユカラ ホテナオ" ネノ アン カ  
ムツユカラ ネ ルウェ ネ。

萱野 ニシパ オルシペ アナクネ "アイヌイタク  
アピラサ クニ!" ネ ルウェ ネ。

大須賀さんは、「エゾオオカミの小神の自叙  
伝」をやってくれました。

以前に、白老の上野ムイテクン媼(おうな)が、  
この神謡をやっていました。

アイヌ神謡集「小娘の神が自ら歌った謡『ホテ  
ナオ』」と似たような神謡です。

萱野さんのお話のテーマは、「アイヌ語を普及  
するために!」です。



エネ ハウエアン ヒ; "コナハポ 茂 ニシパ 国  
会議員 ネ ヒ タトクイエ 五十嵐広三 ニシ  
パポ 内閣官房長官 ネ ワ ホシユハ コチャ  
ランケ アイネ アイヌ文化振興法 アカラ ル  
ウェ ネ," セコロ アン オルシペ イエ ルウェ  
ネ。

オロワノ、志朗 ニシパ アナク アイヌイタク  
アピラサ クニ「アイヌ イタク 特区」ネヤ オ  
ロ タ アイヌイタク アン「公用語法」ネヤ ア  
カラ ヤク ピリカ セコロ ハウエアン。

シネ クル エネ ハウエアン ヒ; "アイヌイタク  
アエパクシヌ クニ アカラ カムピソシ アコロ  
イタク ネヤ アイヌイタク ラジオ講座 ネヤ オ  
ロ タ 標準語 セコロ アイエ プ イサム。

コロカ ヘブライ イタク ネノ アイヌイタク アピ  
ラサ クニ 方言 アエヤム コロ 標準語 アカ  
ラ ヤク ピリカ." セコロ ハウエアン。

コロカ ネワアンペ ホカムパ オルシペ ネ ル  
ウェ ネ。

エスペラント イタク イエ ウタラ ウコイキ ソモ  
キ ノ ウコイソイタク クニネ ヌイエ「プラハ  
宣言」セコロ アン カムピ アン ルウェ ネ。

アイヌタイムズ 編集長 浜田 ニシパ エンカ  
スイ コロ、ネ カムピ アイヌ イタク アニ ク  
ヌイエ ヒネ、エスペラント大会 オロ ウン ア  
ラキ ウタラ エウン クコレ ルウェ ネ。

萱野志朗さんは、亡くなったお父さんの茂さん  
が国会議員であった時に、茂さんの親友だっ  
た故五十嵐広三さんが内閣官房長官で、保守  
派と調整して苦勞して「アイヌ文化振興法」を  
実現したという話をしてくれました。

また、志朗さんは、アイヌ語普及のために「ア  
イヌ語特区」やアイヌ語を含む「公用語法」を考  
えています。

聴衆から次のような意見がありました;「アイヌ  
語テキスト『a=kor itak』やアイヌ語ラジオ講座  
には標準語というものがないが、

ヘブライ語のようにアイヌ語を普及するには、  
方言を大切にしつつも標準語が必要です。」

しかし、実現は難しいようです。

エスペラントを使う人が、争うことなく話し合い  
ができるように世界中のことばのことを考え  
て、書かれてある「プラハ宣言」というものがあ  
ります。

これをアイヌ語で作って、エスペラント大会の  
記念品として配りました。これはアイヌタイムズ  
の編集長浜田さんの協力で作ったものです。

ネ 講演 オルシペ インターネット カ タ カ この講演の話は、インターネットにも書かれて  
クヌイエ ルウエ ネ。 あります。

<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/kongre-j/70kon-j06.htm> (日本語)

ネ オルシペ エチヌ エアシカイ ルウエ ネ。 講演の内容を聞くこともできます。

[http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/70aHEL\\_mp3koen/70aHEL\\_mp3koen.htm](http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/70aHEL_mp3koen/70aHEL_mp3koen.htm) (日本語)

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけてい  
ただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)

購読料: 1500 円 (4号ごと/アイヌ語版のみ)

2300 円(4号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: [otarunay@yahoo.co.jp](mailto:otarunay@yahoo.co.jp)

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。